

令和2年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A: 目標を上回った B: ほぼ目標どおり C: 目標を下回った)

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
1 生徒の自主性を伸ばし志を育成する。	教務課	学校自己評価アンケート項目 教員用「自ら行動できる人材を育てる活動が学校全体で行われている。」 肯定度 R1(54.5%) H30(75%) 生徒用「玉商での学校生活に満足感を持つことができている。」 肯定度 R1(50.4%) H30(66.5%)	生徒自身の将来像と今すべきことを明確にさせるため、生徒とのコミュニケーションと伝達方法の工夫をする。 (LHR、部活動、委員会活動及び進路学習など) 学校自己評価アンケート項目 教職員用「教師は、生徒とのコミュニケーションを十分に行っている。」 肯定度 R1(75.8%) H30(94.4%)	学校自己評価アンケート項目 教員用「自ら行動できる人材を育てる活動が学校全体で行われている。」 肯定度70%以上 生徒用「玉商での学校生活に満足感を持つことができている。」 肯定度70%以上	F祭、修学旅行、インターンシップ等、学校行事の中止に伴い、自主性や協調性、達成感を味わわせてあげることができなかった。年度末に向け、3年生は進路実現、1・2年生は検定取得という目標達成のサポートを行い、達成感や満足感を持たせたい。	C	学校自己評価アンケート項目 生徒用「玉商での学校生活に満足感を持つことができている。」62.1% 年比11.7% 「学校は検定取得のための指導を充実させている。」90.7% 前年比8.2%	A	B
	生徒課	・生徒会行事では、多くの生徒で役割を分担しそれに携わることで人とのつながりを経験する。(F祭委員会活動等) ・部活動への積極的な参加。 ・規範意識を持たせる(交通マナー・人権意識など)	・入部率は近年は高いが、新たな活動場面で自分を見つけるためにも退部後の生徒への指導を徹底していきたい。 ・ボランティア活動への参加人数は増えてきているが、多くの生徒の参加を呼び掛けていきたい。 ・交通マナー・人権意識等社会人として必要な力を養えるように粘り強く指導していく。	様々な場面で生徒会は、活動し学校のリーダーとしてかつどうした。各種委員会では各活動をしているが、例年どおりで新しい取り組みへのアプローチが必要である。 ・4クラスがそろい部活動の人数問題が考えられる。積極的にアプローチしていく。 ・規範意識を持たせるために人権委員会や教育相談と連携をはかり把握に努める。	コロナ禍で部活動・生徒会行事・ボランティアも十分な機会がなく生徒も不完全燃焼の状態であると思う。	B	コロナ禍で部活動・生徒会行事・ボランティアも十分な機会がなく生徒も不完全燃焼の状態であると思う。規範意識の啓発は、十分な成果があったとは言えない。生徒会とは、できることを考え、次に取り組めることを準備している。	B	
	進路指導課	・進路希望調査を実施してもクラスに複数名の進路未決定者がいる。 ・進路実現に向けて早期の取り組みがなかなかできていない。	・オープンキャンパスの案内を進路掲示板に掲げ、クラスへも積極的に案内する。 ・進路情報をきめ細かく発信する。 ・進路ガイダンスや進路講演会を計画的に実施する。	・進学希望者はオープンキャンパスに複数参加している。 ・就職希望者は応募前見学に複数参加している。 ・1・2年生の最後の進路希望調査では「未定」が10%以下になる。	・コロナの影響でオープンキャンパス・応募前見学の延期・中止があり、思うように参加できなかった。また、リモートオープンキャンパス・応募前見学の実施をする学校・企業があり、学校では十分な対応ができなかった。	B	オープンスクールや応募前見学の中止、リモートによる見学実施で、複数の参加が難しい状態にあったなかで、最終的には9割以上の生徒が1校・1社以上に参加することができた。	B	
	総務情報課	・本年度は、和太鼓の海外研修があり、上海との交流を行う。 ・商協シンガポール研修への参加。 ・出前講座 17回実施 ・学校説明会 6回実施 86名参加 ・オープンスクール 564名参加 ・広報誌 3回(訪問は5回)を各中学校に配布 ・玉テレで情報発信 ・図書平均貸出冊数 11.8冊 ・入学者募集状況 一般1.46倍 特別2.65倍	・本年度は、新型コロナウイルスの関係で国際交流の実施は難しく、授業や学校生活の中でグローバル教育を実践する。 ・広報誌や玉テレ、学校説明会では生徒の活動状況等を発信する。 ・本校生徒の自己満足度がUPするように、在校生に対して本校の魅力や伝統を広報していきたい。	・オープンスクール等で本校生徒の成長の場として生徒主体で運営されている。 ・広報誌や玉テレ、学校説明会で生徒の活動状況が発信されている。 ・出前講座 10回以上実施 ・学校説明会 6回実施 100名以上参加 ・オープンスクール 450名以上参加 ・広報誌 5回を各中学校に配布 ・玉テレ番組 3回 ・図書平均貸出冊数 12冊 ・入学者募集状況 1.20倍	・新型コロナ感染症の関係でできない事が多く、工夫をしながらの実践となるが、その中で運動部オープンスクールが実施(82名参加)できたことは良かった。また、玉島テレビなどの取材を受けることで校内の情報を発信できる機会があった。	B	・運動部オープンスクール(生徒82名参加) ・第2回オープンスクール(生徒218名参加) ・出前講座 10回実施 ・学校説明会 6回実施(112名参加) ・図書平均貸出冊数6.8冊 コロナ禍の中最大限の努力は総務情報課の先生方に頑張ってもらった。	B	
	1年団	・入学してきたばかりで、現状がまだ把握できていない。 ・教員の指導に対して、素直に聞き行動しようと心がけている。	・学年目標である「自律・貢献・常識」をHR教室へ掲げ、日頃からお互いを認め合い・思いやり、自ら行動するよう指導し、自覚させる。	・お互いに気持ちの良いあいさつができる。	・6月の全商電卓検定2級(普通計算)を160名受験し152名が合格することができた(合格率95%) ・授業の始業終業時をはじめ挨拶はよくできている。 ・遅刻欠席者もほとんど無く、落ちついて学校生活を送っている。ただ、課題等が未提出や遅れる生徒が若干名いる。	B	・全商珠産電卓検定1級(普通計算)合格者131名(99.2%) 2級合格者149名(95.5%) ・皆勤者数116名(2学期終了時点) ・コロナ禍の中で人間関係に悩み、欠席が増加している生徒が数名いるが、全体的には落ちついて学校生活を送っており、服装頭髪の乱れも少ない。 ・学校生活に満足している生徒が83%と高い数値を示している。	B	
	2年団	・今年度から簿記と情報処理が全員履修となり、1月には全員簿記1級と情報処理1級の検定を受験予定。 ・全商電卓検定(普通計算1級)が9割合格している。 ・皆勤57名(全体の37.5% R2.4.1現在)であり、遅刻も少ない。	・検定合格に向けて全クラス足並みをそろえた計画的で効率的な授業の在り方と効果的なチームティーチングを模索 ・全商電卓検定(ビジネス計算1級)が取得できるよう学年で補習を実施。 ・希望進路実現のため一歩先を見据えた行動を意識させる。	・検定1級の取得者の増加(簿記1級、情報1級20%、電卓1級80%) ・基本的な生活習慣が確立した生徒の増加(1年皆勤生徒40%、2年皆勤30%)	・6月の全商珠算電卓検定1級を78名受験し、67名が合格した。 ・学校生活等で、悩みを抱える生徒が若干名いる。また、体調を崩す生徒が出ている。	B	・全商珠算電卓検定1級133名合格(85%) ・皆勤51名(2学期終了時点) ・1名転学した生徒がいたが、保護者・本人とも担任を中心に十分な話し合いをすることができた。 ・人間関係で悩んでいる生徒がいるが、スクールカウンセラー、SSW等と情報共有をしながら対応している。	B	
3年団	・生徒の時間を守る意識は高く定着している。集会等での集合整列は早く、朝のSHRにおいてもベル着はできており、35分遅刻は少ない。 ・昨年度末出席率97.7%、2年間皆勤者数37名(32%)。2年次皆勤数48人(約32%)。1年次皆勤数65名(42%)。 ・玉翔夢手帳は朝のSHRで記入させたが、自分でスケジュールを立て考えて行動するまでは至らなかった。	「①明るい挨拶をしよう。②時間・期限を守る。③文武両道。④用和為貴(ようわいき)＝仲良くする。⑤努力を要する進路実現。」の5つを学年目標とし、時間・期限の厳守、勉強・部活動との両立、仲間とのコミュニケーション、進路実現に向けて努力することなどの意識をもたせる。高校生活全般を通して、お互いを高め合える「チーム3年」を目指す。	・自ら(相手より先に)、明るい挨拶ができる。 ・授業開始前、チャイムが鳴り終わるまでに着席している(ベル着)。 ・HRでの提出物回収期限までに95%以上。 ・自己管理ができている。出席率95%以上。	・臨時休校後、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。 ・挨拶は行うが、マスクを着用しているため大きな声ではできない状況にある。 ・ベル着については、大多数の生徒はできている。 ・35分遅刻は増加傾向にあり注意を促した。 ・出席率99.2%(12月末) ・3年4月～12月6名1年～3年12月末現在33名。	B	・単純比較はできないが、2年次の同時期と比べて皆勤数は1.3倍、35分遅刻は昨年同時期の4.5倍に増加した。皆勤数66名。2学期は学年集会を2回開き、注意を促したこともあった。 ・学年の雰囲気は年間を通してまずまず落ち着いている。 ・出席率99.2%(12月末) ・3年4月～12月6名1年～3年12月末現在33名。	B		
2 学習活動に意欲を持って取り組むことができる生徒を育成する。	教務課	家庭学習実態調査 「全くしない」と回答した生徒 R1(34.3%) 学校自己評価アンケート項目 生徒用「学校は生徒が自ら進んで意欲を持って取り組めるような授業の工夫をしている。」 肯定度 R1(62.2%) H30(65.1%) 保護者用「学校は、生徒が自ら進んで意欲を持って取り組めるような授業の工夫をしている。」 肯定度 R1(73.3%) H30(59.6%)	・生徒とのコミュニケーションと伝達方法の工夫をする。 ・公開授業週間を実施し、教員間の指導法の共有と授業力向上を図る。(ICT機器の活用、グループ活動、発表、検定対策など) ・生徒用「授業アンケート」の内容を検討し、授業改善のPDCAサイクルを回せるようにする。	学校自己評価アンケート項目 生徒用「学校は生徒が自ら進んで意欲を持って取り組めるような授業の工夫をしている。」 肯定度70%以上	家庭学習実態調査(調査日:8月26日) 「全くしない」と回答した生徒 1年生22.5% 2年生42.6% 3年生43.0% 全体35.7% 「4時間以上」と回答した生徒(人数) 1年生0人 2年生0人 3年生3人 公開授業研究会を11月20日実施予定。研修内容はICT機器を使用した新たな授業展開と題して、新しい授業展開の事例講習会を開催する予定としている。	学校自己評価アンケート項目 生徒用「学校は生徒が自ら進んで意欲を持って取り組めるような授業の工夫をしている。」69.8% 前年比7.6% 「学校はICT機器の利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」76.5% 前年比-0.7% 教員用「学校はICT機器の利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」77.4% 前年比-16.5%	B		

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年とも漢字の読み書きの力、基本的な語彙力、表現力が不十分であるが、全学年共通漢字テストでは、現2、3年生ともに30点以上の生徒が30%以上増加した。また、知識の量が少なく、自分の考えを場面に応じて適切に表現する力が弱い。 ・朝読の時など、図書室を積極的に利用しようとする生徒が見られた。 ・外部コンクールなどに6回応募した。 ・授業中の暗唱に意欲的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通漢字テストを年3回実施し、生徒の知識定着率・向上率の推移の把握に努める。学年ごとに漢字・語彙小テストを実施する。 ・古典に親しみを持たせ、知識の蓄積をはかる。 ・「国語科おすすめ本新聞」などによる本の紹介を通して、多様な文章を読む機会を設ける。 ・表現する機会を多く設けるとともに、応募作品に取組ませ、外部の評価を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通漢字テストで30点以上得点する生徒が前年度比較20%以上増加する。 ・多様な文章に触れる機会を持たせるため、年4回おすすめ本新聞を発行する。 ・百人一首や古典作品の冒頭などの暗唱を複数回行う。 ・全生徒が各種コンクール応募作品に1回以上取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通漢字テスト2回実施済。各学年で1学期の間に10回の小テストも行い実力を養成している。 ・暗唱も実施した。 ・おすすめ本新聞は計画通り発行している。 ・各学年でエッセイ、感想文、意見文、俳句などの表現活動にも取り組んでいる。山陽新聞の投稿欄に3年生10名、2年生5名の作文が掲載された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年共通漢字テスト3回実施済。各学年で1年間に約20回の小テストも行い基礎学力を養成している。 ・暗唱を実施した。 ・調べ学習や発表など入前で話す機会を設けたところ生徒に好評だった。 ・おすすめ本新聞を発行した。 ・各学年でエッセイ、感想文、意見文、俳句などの表現活動にも取り組む、各種コンクールに応募した。朝日新聞の短文コンクールでは入賞者が2名出た。山陽新聞の投稿欄に3年生10名、2年生6名の作文が掲載された。 	B	

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
	地歴公民科	・全学年とも知識の定着が不十分である。また課題も期限をこえて提出したり、内容が不十分であることが多い。 ・新聞やニュースなどの報道に興味・関心を示さない傾向が強く、主権者教育や進路に向けて社会的資質を身につける必要を感じる。	・生徒の興味関心を抱くような授業を展開するために、ICTを活用して資料をよりわかりやすく提示していく。 ・時事問題を授業に導入する。グループワークなどを通じて教科の内容が現在の社会に大きく関わりがあることを理解させ、ニュースなどに興味・関心を抱かせる。 ・課題が期限内に提出できるようにまずはしっかりと声かけをし、内容が不十分な者には適宜指示をする。	・成績不審者が皆無である。 ・社会的な時事知識が深まり、面接や小論文に役立つことで進路実現へ繋がる。 ・期限内に課題提出できる生徒が90%以上となる。	・休校期間中に新型コロナウイルス感染症と歴史・政治に関するオンライン授業を実施した。生徒の興味関心を喚起することができ、学校再開後の授業へつなげることができた。	B	・GoogleJamboard・Googleformを利用して生徒の思考を可視化することで生徒の主体的な学習態度を促すことができた。 ・ICT活用・グループワークの導入が生徒の資質能力の向上に貢献していない場合が見られた。「目的」と「手段」について明確にする必要があると考える。	B	
	数学科	・数学に苦手意識を持っている生徒が多く、「理解したい」とか「より高度な学力を身につけたい」と思わない生徒が相当数いる反面、一部生徒には看護系の進路に応じて数学が特に必要な生徒があり、学習内容のレベルの調整が難しい。また、数学が得意な生徒は多くを求めず、数学が必要な生徒に数学が得意でない生徒が多い。	・丁寧な授業、演習問題を多く取り入れた繰り返しの学びと、より高度な問題に興味・関心を持ち、自主的に取り組めるようにするため、授業プリントや課題にレベルの異なる問題を配置し、知的好奇心をくすぐる。	・授業満足度70%以上 ・課題提出率95%以上 ・自主的に取り組める課題を潤沢に準備する	・提出物はほぼ95%で、1年生においては100%のクラスもある。特定の生徒が提出できないため、引き続き根気強く提出を促したい。 ・手持無沙汰にならないよう、問題は少し多めにしているが、どんどん自主的に取り組む生徒も多い。解答を裏に印刷することにより、問題だけ印刷しているときに比べ、真剣に取り組むように感じる。	B	・一部クラスで提出率が90%に落ちるが、おおむね95%を達成している。 ・解答付きのプリントを使用するが、安易に答を見る生徒も多い反面、学習に上手に利用できる生徒も多くなった。 ・問題集の応用問題にも積極的に取り組む生徒が多く、2学期末考査では応用問題の出題ミスを指摘してくる生徒が多かった。理解が進み、気づく力を身に付けた生徒が一定数出てきた。	B	
	理科	・苦手又は嫌いという生徒が多く、特に座学に対して苦手感が強い。	・生徒が比較的積極的に取り組む、実験や観察をできるだけ多く取り入れた授業を行う。その中で考察を設定し、自分で考える機会をもうける。	・授業理解度70%以上。 ・学年末で成績不振者を出さない。	・顕微鏡を使った実験・観察が多くできた。2学期もできるだけ実験ができるよう工夫をしたい。 ・休業中の課題や課題の解説をmocaで配信することで、昨年より理解度の上昇した単元があった。	B	・1、2学期トータル授業理解度は71.4%だった。2学期中間の理解度が70%を下回った内容的にも難しい単元だったことが影響していると思われる。 ・2学期は1学期より実験・観察の機会が少なく、生徒の興味関心を引き出す授業の工夫が必要となる。	B	
	保体科	・安全を確保して、取り組むことができている、大きな怪我には至っていない。 ・自他の課題を発見し、解決に向けて思考し、行動することができていない。 ・施設・器具の準備、片付を自ら進んで行うことができる生徒が多くいない。 ・はやく集まっているが整列はできていない。	・毎時間健康観察、施設・器具の安全確認、授業前、展開中、授業後に的確な指示（声かけ）をして安全に行わせる。 ・課題を見つけさせ、解決に向けて思考し判断させるとともに、自己の考えを仲間に伝え、他者の考えを理解する力をつける。 ・教員が先に活動場所に行き手本となる。 ・毎週の科会で情報を共有し、共通理解をはかる。	・重大事故ゼロ。 ・課題を見つけ、克服し、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。 ・あいさつがきちんとでき、はやく整列し、授業時間が確保され気持ちよく行うことができる。 ・授業・行事等簡素化をはかり、効率よく協力して行うことができる。（働き方改革）	・コロナ禍の中、授業の最初、準備運動後まで、そして、最後の集合時にマスク着用で実施した。今のところ、大きな怪我、体調不良者をあまり出すことなく実施できている。 ・実施種目が限られているため、不自由をさせているが、大方の生徒達は主体的に取り組むことができています。 ・体育祭代替のスポーツ大会を充実した大会になるように工夫し、少しでもストレス発散の場となり、成果を感じることができる場となるように努めていきたい。	B	・安全面については配慮しながら行ったが捻挫、骨折等の怪我については減らなかった。 ・年間計画通り実施できず生徒には負担を掛けたが一生涯取り組んでくれた。種目終了時に振り返りをさせ、目的意識を持たせ取り組ませた。主体的に取り組む意欲が強い生徒が増えてきている。 ・本年度よりデジタル教科書を活用することができた。 ・週1回科会をほぼ実施し、共通理解がはかれ効率よく実施できた。しかし、教員減のためスムーズにいかないことが増えてきた。 ・授業時数確保のために、学校行事で実施していた冬季球技大会を昨年度同様LHR+体育授業で実施した。	B	B
	英語科	・今年度の英検合格者数 1級：1名（3年） 2級：9名（2年：6 1年：3） 3級133名（1年） ・1級と2級の合格者数はものたりないが、3級の合格率はまずまず。現在の2年生も3級合格率は高かったため、基礎学力の定着ははかっている。上位者層の数を増やすことが課題としてまだ残っている。 ・考査の平均点は全学年ともに60点を超えていた。3年生の一部が2学期に提出物を出さなかったため、赤点を出した。	・国公立大入試にも対応できる、より高度な読解力・表現力を練成する。 ・課題を期限内に提出するように指導する。 ・主体的で深い学びを念頭に置き、機械的、ドリル的学習にとどまらず生徒の想像力や思考力を刺激しながら、言語運用力・異文化理解、読解力、情報収集能力など多様な側面から自発的、能動的姿勢による学習を促進する。	・基礎学力が定着している。 ・全商英検2・3級の合格者数が昨年を上回る。また全商英検1級の合格者が複数名いる。 ・考査平均点が60点オーバーになる。（ただし科目の到達度によっては結果はそのかぎりではないことも予想される。） ・国公立大入試にも対応できる、より高度な英語力を身につけている。	英語を入試に使う生徒は3名（国公立2名・看護1名）おり、全商英検1級の補習で兼ねて対応中である。9月6日にある今年度1回目の英検に向けて、授業時間や放課後の補習を使い、演習を行っているところである。1学期期末考査の成績は、平均点が70点前後であり、まずまずであった。	B	・全商英検 1級合格：4名（3年3 2年1） 2級合格：6名（2年3 1年3） 3級合格94名（1年） ・今年度、入試科目に英語を使っている生徒は2名。英語会話や課題研究SkillUpコースを選んでおり、それに対応している。英検1級合格者についても、英語会話、課題研究、補習で対応した。 ・考査の平均点は概ね60～70点あたりで、赤点を取った生徒は、1年生の英語表現で1名いるが、アフターケアを丁寧に行っている。 ・英検2級合格の壁が高いようである。来年度に課題を残した。	B	
	家庭科	・中学校での実習が少なく、製作技術が未熟であるとともに自力で作品を完成させた経験が乏しい。 ・班で協力しながら、自主的、主体的に活動できない生徒が多い。 ・幼児と触れ合う機会が少なく、子どもに対して苦手意識を持っている生徒が増加している。	・実習において、各班に分見本等を準備し、班で協力しながら各自で作成できる環境を作る。 各班で自主的に準備・片付けができるように促し、周囲を見ながら行動できるよう指導する。 ・実習において、各自が主体的に取り組み、自力で作品を完成させることにより、達成感を感じることができるよう指導する。 ・幼稚園実習準備過程で、各クラス生徒主体で、企画・準備させることにより、意識的に尚且つ主体的に幼児とかかわろうとする態度を育てる。	2年 ・被服実習において、自力で作品完成100%。 ・エプロン完成後の自己評価A80%。 ・事前に準備物等を板書しておき、それを見ながら行動できる。 3年 ・幼稚園実習後の自己評価でA80%	・被服実習に関しては、ほぼ全員が、自力でエプロンを完成させている。今年度は、エプロンに加え、手作りマスクを製作する予定にしている。 ・本年度は、コロナ禍により、幼稚園実習を中止。何か他の方法を考えたい。	B	2年 ・エプロン・マスク製作では、部分見本を参考に、各班で協力しながら100%自力で完成することができた。 ・自己評価A84% ・被服・調理実習を通して周囲を見ながら自主的に行動できるよう指導した結果、当初より行動できるようになった。 3年 ・コロナの影響で幼稚園実習は中止になったが全員で「花ゴマ」を作り園児にプレゼントした。	B	
	商業科	・1年生は、概ね基礎基本は身に付いている。 ・2年生は、各コースの学習到達度基準としての成果物（全商検定1級）が取得できていない生徒がいる。 ・3年生は、課題研究では各カテゴリ（講座）の成果物が充実してきた。（観光とサービス：バスツアーの企画・運営、商品と流通：ローションとのコラボによる商品開発、グローバル人材育成：フェアトレード周知活動、スキルアップ：全商英検1級合格者輩出、国公立大学・難関私立大学等への進学）	・1年生：基礎基本の徹底に努め、商業科目を学ぶ喜びを感じさせながら、検定合格を目指す。 ・2年生：授業のみならず学年団とも連携し、検定1級合格者を多く輩出させる。 ・3年生：課題研究の内容を「調査、研究、作品制作、実習、職業資格取得」とし、担当で取り組みを充実させるとともに、実践・発表を通して、プレゼンテーション能力・社会人基礎力を身に付けさせる。また、学年団とも連携し、検定1級合格者を増やす。	・1年生：全商電卓・簿記・情報処理・商業経済検定の合格率85%以上。 ・2年生：学年団とも連携し、検定1級合格100人（62.5%）以上。1級3種目以上合格者16人（10%）以上。 ・3年生：課題研究の実践・発表を通して、人前でプレゼンテーション（発表）ができるようになる。また、課題解決を通して社会人基礎力が身に付いている。また、検定1級合格者110名（73.3%）、1級3種目以上合格者40人（26.7%）以上。	・本年度より「財務会計1」「原価計算」「ビジネス情報」の2年生全員履修に伴い、クラスを半分に分け、少人数できめ細かい指導を行っている。 ・3年生「課題研究」においては、講座制（7講座）で探求活動を取り入れた授業展開を行っている。ただし、来年度に向けて「スキルアップ」「公務員養成」講座は探求活動を取り入れた形に改善していきたい。	B	・2年生、会計・原価計算・ビジネス情報全員履修に伴い、少人数できめ細かい指導を行い、まずまずの成果をあげた。 ・3年生「課題研究」においては、ほとんどの講座で探求活動を取り入れた授業展開を行うことができた。来年度は「SDGs」「キャリア探究」講座を新設し、全講座とも探求活動に取り組むようにする。	B	
3 特別活動や部活動、社会貢献活動をとおして社会規範を身につけさせ社会人基礎力を育成する。	生徒課	・部活動では多くの部が目標に向かって協力し、活発に活動している。部活動の入部率が95%を維持する。 ・ボランティアへ多くの生徒が参加し、経験を通して助ける心が養われている。 ・県大会出場する部が前年度より増加している。	・F祭では生徒会や3年生を中心に動くようにしたい。 ・部活動では、少しずつではあるが成果が出てきており、文化部等の見えない部分をどう広報していくかを検討していきたい。 ・ボランティアも参加したい生徒はいるので広報しながら幅を広げていきたい。	・ボランティア活動は興味を持ち活動する生徒が、増えている。把握しながら進めていきたい。 ・部活動では、入部率は近年高くなっている。退部後の再入部への声掛けがあり、退部した生徒の再入部が多い。 ・今年度も県大会以上を目指し、各部が活動をする。	コロナ禍で部活動・生徒会行事・ボランティアも十分な機会がなく生徒も不完全燃焼の状態であると思う。今できることをと考えると、今できることに取り組んで生きたい。	B	コロナ禍で部活動・生徒会行事・ボランティアも十分な機会がなく生徒も不完全燃焼の状態であると思う。部活動の現在の入部率は例年より高く、今後は活動内容を検討していかなければならぬだろう。あらゆる活動が、制限により、活動できなかった。	B	

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
	1年団	<ul style="list-style-type: none"> 男子が50名と少ないが、男女とも中学校で部活動に参加していた生徒がほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> 兼部も視野に入れさせ、全員が部活動に参加するよう、部活動の意義を理解させる。 ボランティア活動等の情報を発信し、積極的に参加するよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 160名全員が部活動に参加している。 ボランティア活動等に多くの生徒が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 160名全員が部活動に入室し頑張っている。 新型コロナの影響で思うように社会貢献活動に参加することができていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 160名全員が部活動に加入しており、日々頑張っている。 新型コロナの影響でボランティア活動等の社会貢献活動はできていない。活動可能な時期が来ればあ、積極的に参加させたい。 	B	B
	2年団	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に部活動を途中退部した生徒が多く出ている現状。 部活単位で社会貢献活動を実施している。 1年次に多くの生徒が社会貢献活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事のみならず、社会貢献活動の機会を与え、自主的に参加できるようにする。 部活動時間の確保（教員の放課後のはみ出しを少なくする。） 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの部が県大会に出場。 部活と勉強の両立。 積極的な社会貢献活動の参加。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウィルスの影響で甲子園予選、総体予選等が中止になったが、代替大会が行われ、3年生と協力して活躍した生徒がいた。 学校再開後、部活動の中心として活動している生徒がいるが、部へ所属していない生徒も多くいる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動の大会が行われ、中心となって活躍している生徒も多くいるが、部に所属していない生徒、退部する生徒も出ている。 コロナウィルスの影響で中止になる社会貢献活動が多数あったが、円通寺公園清掃活動では、生徒は積極的に取り組み地域の方々が大変喜ばれた。 	A	

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
	3年団	<ul style="list-style-type: none"> 部活動でキャプテンを務めたり、生徒会活動総務に加わったりするなど自覚と責任持ち、中心的な立場を担う者が増えている。 昨年度の学習成果発表会では、役割を進んで行うなど積極性が見られ、代表生徒による発表やクラス発表もよかった。2年次の玉ナビから同じカテゴリを課題研究で継続して学習している。 	<ul style="list-style-type: none"> 最終学年として、部活動や学校行事のF祭でリーダーシップを発揮し、集団の牽引力になるよう呼びかける。 課題研究においては、課題設定、課題の解決を図る学習を通して、計画的、主体的に取り組むことができるよう学年においても協力する。（商業科とのコラボレーション。） プレゼンテーション能力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事のF祭を、リーダーを中心に集団を牽引し、生徒（先輩・後輩）の協力を募り、成功に導くことができる。 課題研究における講座内発表と、全体発表会の内容を深め、プレゼンテーションできる。 クラスで1分間スピーチを行うことで、プレゼンテーション慣れ、自分の意見を発表できる。（1回以上）。 	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休校あり途中中断したものの、運動部は最後の大会に向けて励んだ生徒が多い。 「1分間スピーチ」は、授業や、HRにおいて行事後の生徒発表を取り入れて指導する方法に変更した。現在の生徒は、言語活動の充実からか、面接の場面で堂々と話すことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> F祭が中止となるなど、生徒が活動する機会が少なかった。スポーツ大会後、クラス内で生徒発表を行い、1分間スピーチに代えた。 課題研究発表会では、商業科とコラボして取組、リモートによる動画発表を行う。課題研究（公務員講座）は2名の受講であったが開講し、2人とも現役合格を果たした。学年通信を発行し、生徒に適宜喚起した。2学期学習時間平均中間124.8分（昨年120.4分）、127.2分（昨年114.2分） 	B	

具体的な学校経営目標	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	総合評価
4 将来を見据えたキャリア教育を充実させ進路実現ができる力を育成する。	進路指導課	・就職内定率（学校推薦）100%を達成することが出来たが、自分で進路先を探すという生徒が2名いた。 ・進学では、国公立大学2名・難関私大1名が合格することが出来た。 ・進路講演会や各種進路ガイダンスを企画実施した。	・キャリア教育を系統立てて計画実施する。 ・基礎学力の向上を目指し、SPI学習や小論文対策に積極的に取り組むよう指導支援する。 ・進路情報の収集に努め、企業訪問や入試説明会に積極的に参加し、適切な情報を生徒保護者に伝える。	・就職内定率（学校推薦）が100%になる。 ・国公立大学・難関私大に5名以上合格する。 ・SPI学習や小論文指導に80%以上の生徒が参加している。 ・進路講演会や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・企業訪問へ60社以上訪問、入試説明会へ20校以上参加する。	・コロナの影響で、企業訪問の受け入れ禁止・入学説明会の中止等で、電話連絡等でのみの情報収集しかできなかった。 ・進学は試験の仕組みが大きく変わったことと、コロナの影響で県外への受験が減ったが、目標は達成できた。	B		A	
	1年団	・高倍率を勝ち抜き入学しているため、入学できたことに満足し、希望と意欲を持っている生徒が多い。	・キャリア・パスポートを有効に利用し、早期より3年後の進路を意識させる。 ・定期考査に対して、家庭学習時間を記入させ、計画的・自主的に勉学に取り組むよう指導する。 ・全商検定全ての取得を目指すよう日頃から指導する。	・進路希望を言うことが出来る。（未定者10%以内を目指す） ・簿記・情報処理・商業経済検定の平均合格率80%を目指す。	・第1回目のコース・科目選択希望調査を実施し、将来の進路を考える良い機会となっている。 ・9月にも担任による面談を実施し、将来を見据えたコース希望の最終調査を実施する予定である。 ・2学期に進路ガイダンス・進路探究を実施する予定である。	B		B	
	2年団	・進路調査、面談等で進路未定の生徒が多いのが現状。 ・迷っているのではなく、自分の将来について全く考えていない生徒も見受けられる。	・総合的な学習の時間（玉ナビ）を活用し、自己分析をすることで、さまざまな職種・業種を知る機会を与える。 ・地元社会人と交流していく中で、地域産業を知るとともに、自分自身の将来設計をする。 ・その職業に就くためにどのような進路選択があるか、そのために自分自身に必要なことを考えさせる。	・インターンシップの実現 ・効果的な夢手帳とキャリアパスポートの活用 ・計画的で充実した総合的な学習の時間の実現	・インターンシップは、中止になったが、総合的な時間（玉ナビ）を活用し、進路の意識付けができています。	B		A	
	3年団	・新型コロナウイルス拡散の防止に伴う臨時休校のため、年次末の進路面談、小論文対策講座などが実施できていない。 ・進学用調査書の変更や学修計画書の導入等、新しい入試制度が始まる学年である。学年通信では新しい入試制度について知らせ、年度当初の学年集会では、人生の大きな節目となる年の進路選択話し、意識づけをしている。 ・生徒は自分の進路について真剣に考え、保護者の意見も踏まえ、担任と面談している。	・いつでも試験に行けるよう、服装頭髪の乱れがないよう呼びかける。 ・検定の取得の推進。 ・進路実現のために必要な情報提供と進路指導。 ・実力養成テスト（全13回）実施し、基礎力をつける。	・卒業時には、生徒全員が（希望通りの）進路決定をしている。	・今年度は、総合型選抜などの進学試験や、就職試験が約1カ月後倒しになり、学年通信や、保護者宛て文書で就職日程の変更に伴う日程を三者懇談で説明し、生徒・保護者の理解を促した。休校期間があり、企業研究（職種研究）や、学校（学部）研究が十分できていない中、就職希望者は応募前見学に行き、受験企業を選定する運びとなった。 ・実力養成テスト（全13回実施）し、基礎力の養成に取り組んだ。	B		A	B
	商業科	・1年生は玉島学習を通して、地域の歴史と産業を学び、文化祭で活動内容をまとめた報告書を展示した。 ・2年生は「総合的な学習の時間（玉ナビ）」でインターンシップ、地域研究（フィールドワーク）に取り組んだ。 ・3年生は「課題研究」の各カテゴリ（講座）の成果物が充実し、進路実現の一助となっている。	1年生：1学期末は玉島学習を実施する。2学期末は地域産業に関わる方を招聘し、将来を見据えた問題意識を持つきっかけを作る。 2年生：「総合的な探求の時間（玉ナビ）」は、「キャリア探求」とし、自己分析、職業理解、インターンシップ、自己PR文・志望理由書の作成を行う。 3年生：これまで学んできた商業科目の集大成として「課題研究」に取り組む、課題設定・課題解決を通して、計画性、プレゼンテーション能力、社会人基礎力を養う。	1年生：地域学習を通して、将来に対する問題意識を抱いている。 2年生：「総合的な探求の時間（玉ナビ）」を通して、自己分析、職業理解ができています。また、インターンシップで職場実習を行い、将来進む道が概ね見えている。 3年生：「課題研究」を通して、計画性、プレゼンテーション能力、社会人基礎力を身に付け、希望する進路を実現している。	・校外での活動が自粛されるなか、「高梁川流域未来人材育成事業」「高校生による日本遺産魅力発信事業」の2事業が採用され、地元玉島の活性化に努めている。 ・3年生「課題研究」では、これまで学んできた商業科目の集大成として、課題設定・課題解決・探求活動を通して、計画性、プレゼンテーション能力、社会人基礎力を養っている。	B		B	
5 意思の疎通を推進し、風通しの良い組織となるよう協働していく。	管理職	・各部署内での協働は確立されているが、組織として情報共有などに課題がある。 ・昨年度から組織の効率化を図り、5課あったものを4課に減少しており、運用面で安定を図っている。 ・時間外勤務の平均時間が、岡山県の目標値4.5時間を上回っており、昨年度の実績で4.9時間となっている。	・週定時の運営委員会を通じ現状と課題を確認し、情報共有を図りながら対応策を協議する。加えて適切な時期に的確な指示を出す。 ・面談を活用しながら、働き方改革の観点も踏まえ、業務の効率化をどのように行うかを明確にし、最終面談で達成状況や評価を行う。 ・個人で定時退校日を設定したり、学校全体で定時退校の日を決めて運用する。	・学校経営計画に基づき各組織の目標が適切に設定され、意欲的に業務に取り組んでいる。 ・コンプライアンスの観点から、同僚性のある風通しの良い組織を意識した研修を実施し、不祥事を防止する。 ・時間外勤務の平均を、前年対比で1割減少させ、4.5時間を目標とする。	・年間計画を大きく変更することとなり、情報共有を図りながら運営委員会を適宜実施することができた。（8月末で1.6回実施 前年対比1.8倍） ・臨時休業により5月の時間外勤務が大きく減少したこともあり、8月末までの平均が3.4時間となり、目標の4.5時間を大きく下回った。	B		B	B
6 生徒が安全で快適に過ごせる施設、設備の整備を推進する。	教務課（事務）	・施設・設備の老朽化が進み、改修が必要な箇所が多数見受けられる。毎月の安全点検で、改修・改善箇所が発見されたら、事務室と連携して早急に対応するよう努めている。	・学期に1回安全点検週間を設け、要改善箇所は、事務室と連携して早急に改修・改善し、校内安全の確保を図る。 ・器具の点検も定期的に行う。 ・整備委員会を活用して、教室の美化点検に努める。	学校自己評価アンケートの校内美化・施設設備に関する項目（2項目）が、全て80%を上回る。	安全点検カードで修繕箇所の調査を行った。転倒防止策や清掃道具の追加など、長寿命化工事中ではあるが、早急な対応を行った。	A		A	B